

平成20年度（第52回）
岩手県教育研究発表会発表資料

道 徳

命を大切にする心を育む中学校道徳教育に関する研究

- 道徳的実践プログラムの作成をととして -

研究協力校
花巻市立南城中学校

平成 21 年 1 月 7 日
岩手県立総合教育センター
長期研修生（2年）
小 石 孝 紀

目 次

研究目的	1
研究の方向性	1
研究の年次計画	1
本年度の研究内容与方法	1
1 目標	1
2 内容与方法	2
3 研究協力校	2
研究結果の分析と考察	2
1 第1年次の研究の経緯	2
2 命を大切にすることを育む中学校道徳教育に関する基本的な考え方	3
(1) 改善点1を踏まえた研究の基本的な考え方	3
(2) 改善点2を踏まえた研究の基本的な考え方	3
(3) 命を大切にすることを育む中学校道徳教育に関する基本構想図	4
3 命を大切にすることを育む道徳的实践プログラムの作成	5
(1) 命を大切にすることを育む道徳的实践プログラムの概要	5
(2) 命を大切にすることを育む道徳的实践プログラムの作成の手順	6
4 命を大切にすることを育む道徳的实践プログラムに基づく実践とその分析と考察	11
(1) 分析と考察の方法	11
(2) 実践記録	11
【資料1】「命を見つめるオリエンテーション」の実践概要	12
【資料2】「道徳的实践活動として位置付けた総合的な学習の時間の職場体験学習」の 実践概要	14
【資料3】「命を見つめる振り返りタイム」の実践概要	17
(3) 実践の分析と考察	19
5 命を大切にすることを育む中学校道徳教育に関する研究のまとめ	24
研究のまとめ	25
1 研究の成果	25
2 今後の課題	25
〔おわりに〕	
【引用文献】	
【参考文献】	

研究目的

道德教育の目標では「人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を培う」ことが筆頭に挙げられており、命を大切にすることを育むことは、豊かな人間性を形成する上で基盤となるものである。特に心身の成長が著しくみられるようになる中学生の時期に、人間として自他の生命をかけがえのないものとして大切にすることを育んでいくことはとても重要なことであり、道德教育の果たす役割は非常に大きい。

しかし、平成18年度中央教育審議会の「道德教育の現状と課題」の報告においては、学年の段階等を踏まえた道德教育の重点がみえにくいことや道德の指導計画や道德の時間の指導が形式化して命を大切にすることが十分に育っていないことが課題として挙げられている。これらのことは、教育活動全体をとおして行われる道德教育の指導計画と道德の時間との相互関連が、命を大切にすることを育む視点から効果的に機能しておらず、系統的かつ継続的な見通しが不足していることが要因であると考えられる。さらに、道德の時間の指導において、生徒の心の内面に迫る効果的な指導方法になっていないことも要因の一つとして考えられる。

このような状況を改善するためには、道德の時間を中心に、教科、他領域、生徒の日常生活全般の指導と関連させた道德的实践プログラムを作成し、道德的实践活動を推進していくことが必要である。その際、中心となる道德の時間においては、生徒の発達段階や実態に応じ、日常生活や他の教育活動と関連させた効果的な教材・資料選定や指導方法の改善・充実を図ることが重要である。

そこで、本研究は、道德的实践プログラムの作成をとおして、命を大切にすることを育むための指導の在り方について明らかにし、中学校道德教育の充実に役立てようとするものである。

研究の方向性

中学校において、命を大切にすることを育むために効果的な道德の時間の指導方法や道德的实践活動の計画の在り方を示した道德的实践プログラムを作成し、命を大切にすることを育む中学校道德教育の推進に資する。

研究の年次計画

本研究は、平成19年度から平成20年度にわたる2年次研究である。

第1年次（平成19年度）

命を大切にすることを育む道德教育についての基本的な考え方の検討及び基本構想を立案し、道德的实践プログラムの作成、道德的实践プログラムを活用した道德の時間の指導や道德的实践活動をとおしてその改善点を明らかにする。

第2年次（平成20年度）

第1年次に明らかにした道德的实践プログラムの改善点を基に道德の時間の指導や道德的实践活動を行い、その分析・考察をとおして命を大切にすることを育む道德教育の在り方についてまとめる。

本年度の研究内容与方法

1 目標

中学校道德教育において、道德的实践プログラムの改善点を基に道德の時間の指導や道德的实践活動を行い、その分析・考察をとおして命を大切にすることを育む道德教育の在り方についてま

とめる。

2 内容と方法

- (1) 命を大切にする心を育むための道徳的实践プログラムの作成（文献法）
- (2) 命を大切にする心を育むための道徳的实践プログラムを活用した指導実践及び実践結果の分析と考察（授業実践・調査法）
- (3) 命を大切にする心を育むための中学校道徳教育に関する研究のまとめ

3 研究協力校

花巻市立南城中学校

研究結果の分析と考察

1 第1年次の研究の経緯

第1年次の研究の基本的な考えは、以下のとおりであった。

本研究においては、命を大切にする心を育むために「健全な自尊感情」、「人間関係を築く力」、「規範意識」の育成が重要であると考え。そして、この三つの重要事項全てにかかわる重視したい学習指導要領道徳編の内容項目を1 - (3)「自主自律、誠実と責任」、2 - (3)「友情・信頼」、3 - (2)「生命の尊重」、4 - (3)「公德心、社会連帯の自覚」ととらえて、この四つの内容項目の価値を高めるための道徳的实践プログラムを作成し、学校教育活動全体の中で意図的、効果的に活用していくことが、命を大切にする心を育むことにつながると考える。

この基本的な考えのもとに研究協力校で実践を推進した結果、以下の課題が明らかとなった。

[課題1] 道徳的实践プログラムの考え方について

三つの重要事項の一つ一つが複数の道徳内容項目に関連しているので、道徳内容項目を四つに限定することについて見直しを図る必要がある。

[課題2] 道徳的实践プログラムの流れについて

命を大切にする心と三つの重要事項の結び付きを生徒が自覚できる場面がなかった。

[課題1]については、四つの道徳内容項目を重点的に高めるために道徳的实践活動や道徳の時間を位置付けるのではなく、各学校や生徒の実態に合わせて、弾力的に学校教育活動に道徳的实践活動を位置付けて推進を図る必要があると判断した。

[課題2]については、生徒たちに日常の学校教育活動を大切にしていけることが、命を大切にする心につながる意識付けを図る場面を設定することで、道徳的实践活動に臨む意欲を高めたいと考えた。

そこで、[課題1]、[課題2]をそれぞれ以下のように改善して、第2年次の研究推進を図ることとした。

[課題1の改善点] 四つの道徳内容項目に限定して、三つの重要事項全体を高めていくのではなく、一つ一つの重要事項を高めるために複数の道徳内容項目に関連させて、道徳的实践活動を推進していく。

[課題2の改善点] 命を大切にする心と三つの重要事項の結び付きを生徒に自覚させ、三つの重要事項が日常の学校教育活動で育まれていることに気付かせる場面を道徳的实践プログラムの最初と最後に位置付ける。

2 命を大切にすることを育む中学校道徳教育に関する基本的な考え方

第1年次の研究実践の課題とその課題の改善点を受けて、本年度の研究の基本的な考えを次のとおり示す。

(1) 課題1の改善点を踏まえた研究の基本的な考え方

本研究においては、命を大切にすることを育むために「健全な自尊感情」、「人間関係を築く力」、「規範意識」の育成が重要であると考え。これら三つの重要事項に関連する道徳性を学習指導要領道徳編の内容項目と結び付けた道徳の時間と学校教育活動全体との効果的な関連を図った道徳的实践プログラムを作成し、活用していくことで、命を大切にすることを育むことにつながると考える。

この研究で最も大切にしたいことは、命を大切にすることを育むことをねらいとした道徳教育の在り方の具体を中学校の教育活動全体に位置付けることである。

そこで、命を大切にすることを育むことをねらいとして道徳の時間を中心に、教科、他領域、生徒の日常生活全般の指導と関連させた道徳的实践プログラムを作成し、道徳的实践活動を行っていくことで、中学校道徳教育の推進を図ることとする。

命を大切にすることを育む道徳的实践プログラムを次のように定義する。

道徳的实践プログラムとは、命を大切にすることを育むために大きくかかわるととらえた「健全な自尊感情（自分も他人も大切にすることを）」、「人間関係を築く力（まわりの人とよりよい関係を築こうとする力）」、「規範意識（善悪を判断し、まわりを考えて行動しようとする心）」の三つの重要事項を高めるための道徳的实践活動等の指導計画の作成の手順及び具体の指導計画例を示したものである。

命を大切にすることを育む道徳的实践活動を次のように定義する。

道徳的实践活動とは、命を大切にすることを育むために道徳の時間と他領域、生徒の日常生活全般の指導を関連させた一連の活動を示す。「個人目標の設定と意欲付け（第一段階）」、「実際の活動・体験（第二段階）」、「活動に対する振り返り（第三段階）」の三段階から成る。

本研究においては、命を大切にすることを育むための三つの重要事項に関連するととらえた重視する中学校学習指導要領道徳編の内容項目を【表1】としてとらえる。

【表1】三つの重要事項と関連するととらえた重視する道徳内容項目

重 要 事 項	関連するととらえた重視する道徳内容項目
健全な自尊感情	1の視点（主として自分自身に関すること） 1 - （2）希望、勇気、強い意志 1 - （3）自主自律、誠実と責任 1 - （5）反省と向上、個性の伸長
人間関係を築く力	2の視点（主として他の人とのかかわりに関すること） 2 - （2）人間愛、感謝と思いやり 2 - （3）友情・信頼 2 - （5）個性や立場の尊重、謙虚、広い心
規範意識	4の視点（主として集団や社会とのかかわりに関すること） 4 - （2）遵法、権利義務、社会の秩序と規律 4 - （3）公德心、社会連帯の自覚 4 - （4）正義、公正公平、差別や偏見の克服

内容項目の表題は、副読本から引用したものである。本頁以降も同じである。

(2) 課題2の改善点を踏まえた研究の基本的な考え方

「命を見つめるオリエンテーション」から「命を見つめる振り返りタイム」まで、命を見つ

めることから始まり、三つの重要事項を高める道徳的实践活動を行い、再び命を見つめることに戻る一連の教育活動が道徳的实践プログラムの流れである。

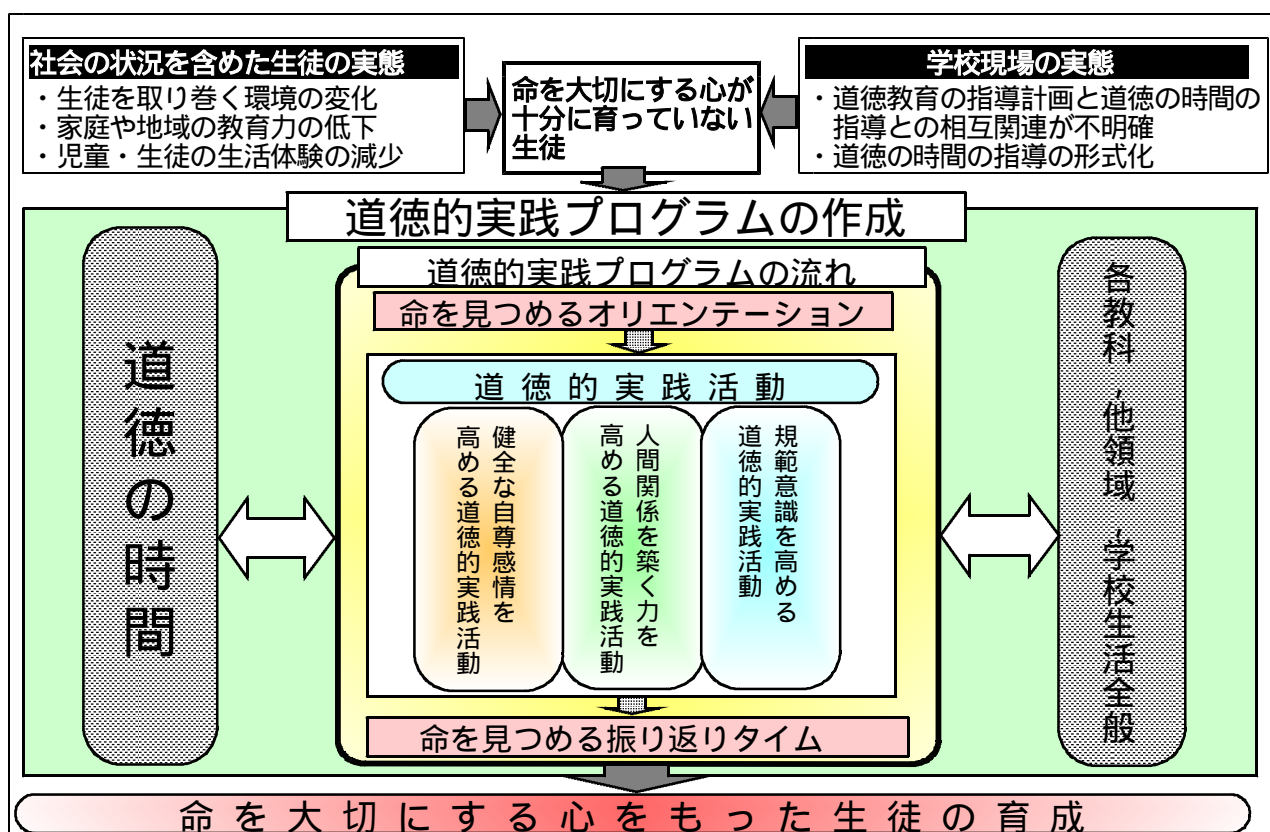
「命を見つめるオリエンテーション」とは、生命尊重の価値の自覚を図る道徳の時間からスタートし、特別活動で命を大切にする心が、「健全な自尊感情」、「人間関係を築く力」、「規範意識」の三つの重要事項に結び付くことや三つの重要事項を日常の学校教育活動で育んでいることに気付かせていく指導実践である。この指導実践を行うことで、生徒が学校の諸活動に主体的に取り組んでいこうとする意欲を高めることができると思う。

「命を見つめる振り返りタイム」とは、生徒自身が、これまでの取り組んできた一連の道徳的实践活動をとおして、どのような成長が見られ、そのことが命を大切にする心にどのようにつながったのかを見つめ直す特別活動からスタートし、道徳の時間で再び生命尊重の価値の自覚の継続化を図る指導実践である。この指導実践を行うことで、生徒にこれまでの取り組んできた一連の道徳的实践活動を振り返らせ、活動の中での成果を再確認し合うことで、自分自身の心の成長を自覚させたいと考える。

道徳の時間の指導は、三つの重要事項を高めるための道徳的实践活動ごとのねらいによって関連する重視したい内容項目の中から一つに絞って、道徳的实践活動の前後に弾力的に位置付けながら道徳的価値把握のための補充、深化、統合を図るものとする。そのために、効果的な道徳の時間の指導の在り方を示した指導展開案を作成することとする。これは、命を大切にする心を育むための内容項目に関する道徳の時間の指導展開が示されたものである。

(3) 命を大切にする心を育む中学校道徳教育に関する基本構想図

ここまで述べてきたことを基に、命を大切にする心を育む中学校道徳教育に関する基本構想図を【図1】に示す。

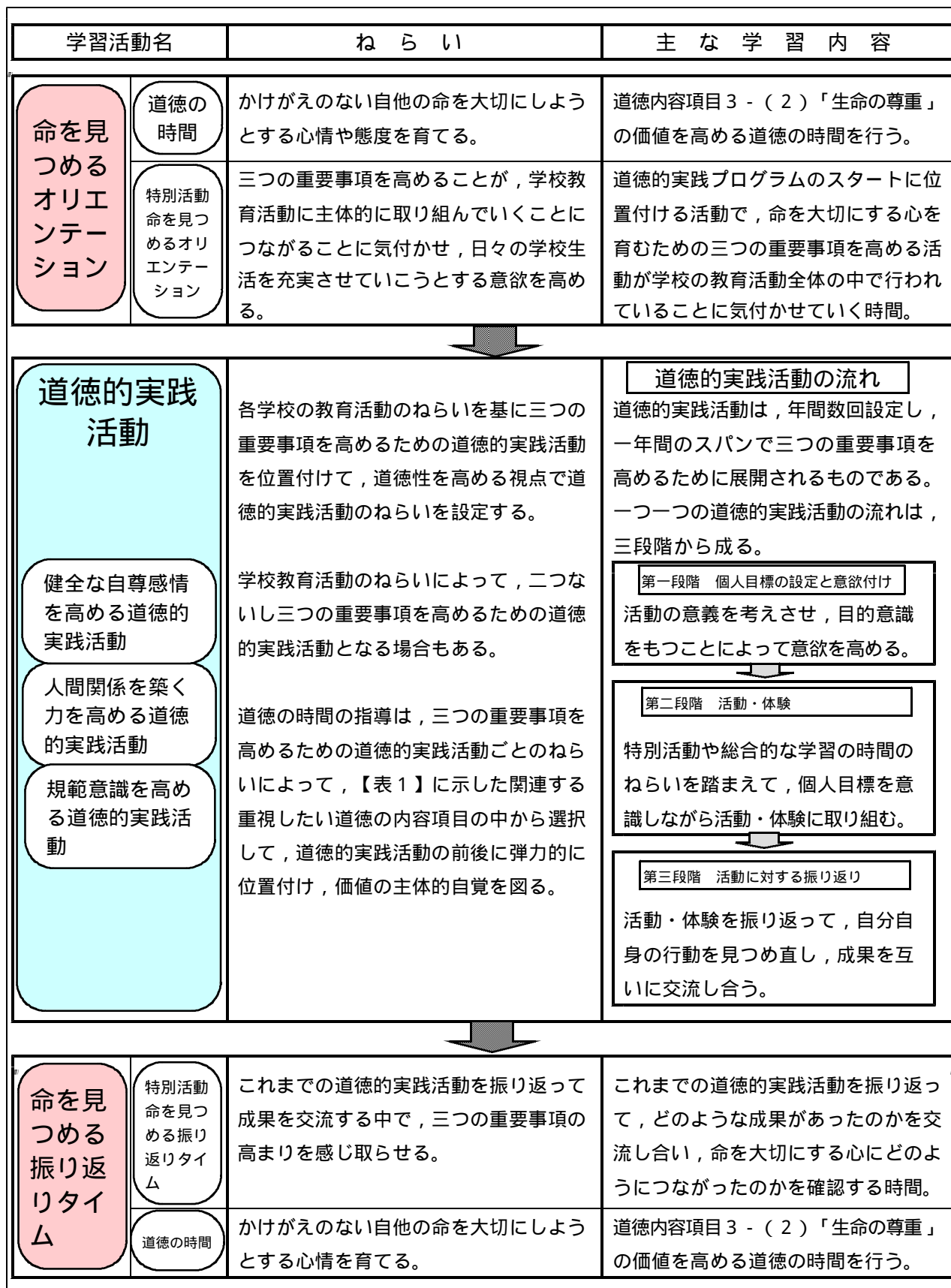


【図1】命を大切にする心を育む中学校道徳教育に関する基本構想図

3 命を大切にすることを育む道徳的实践プログラムの作成

(1) 命を大切にすることを育む道徳的实践プログラムの概要

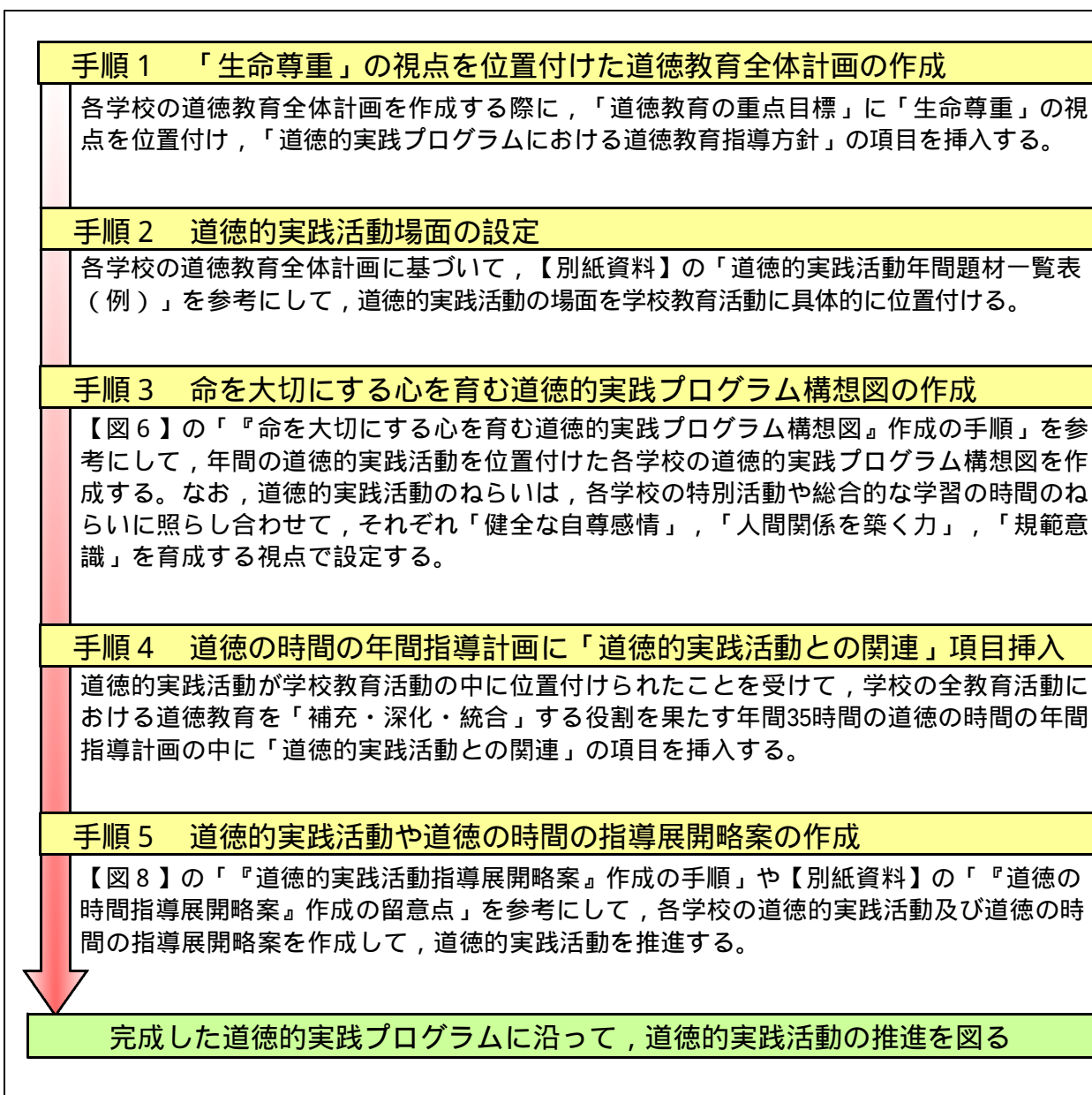
「命を大切にすることを育む道徳的实践プログラムの概要」を【図2】に示す。



【図2】命を大切にすることを育む道徳的实践プログラムの概要

(2) 命を大切にすることを育む道徳的実践プログラムの作成の手順

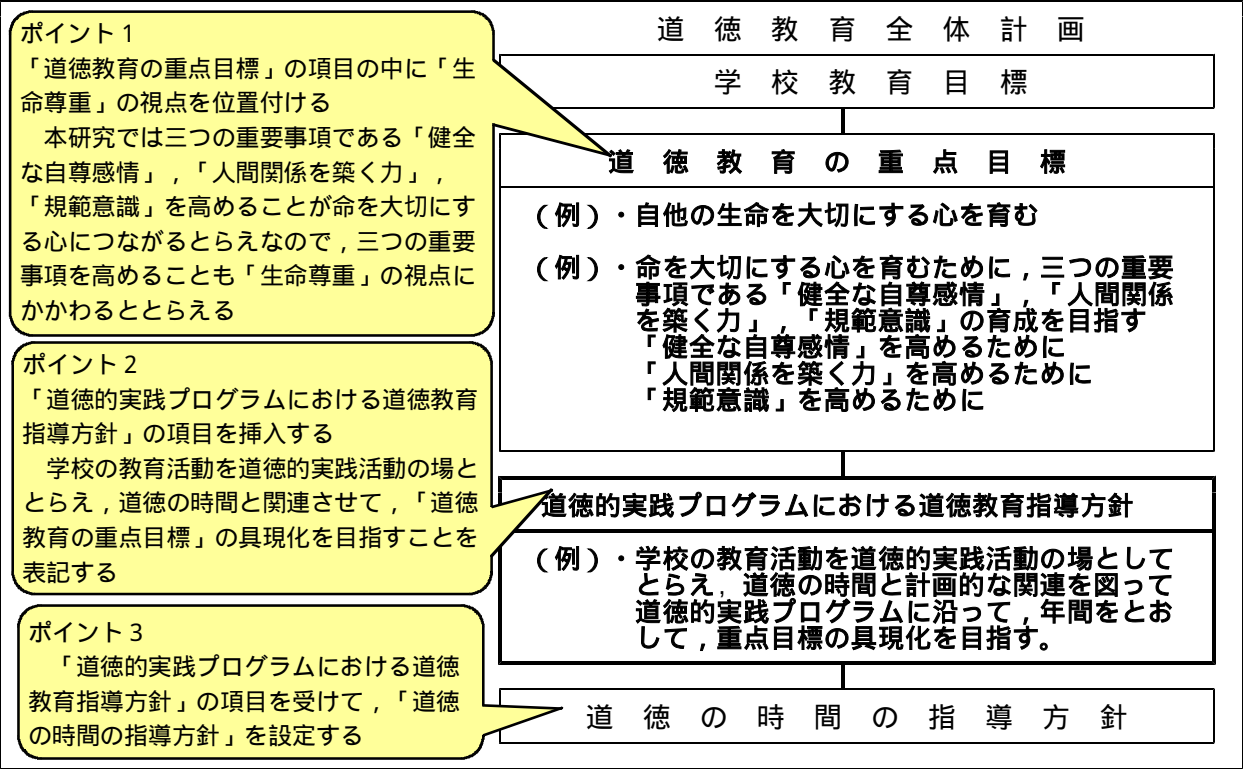
命を大切にすることを育む道徳的実践プログラム作成の手順を【図3】に示す。



【図3】命を大切にすることを育む道徳的実践プログラム作成の手順

以下、次頁以降（P7～P10）に五つの手順の一つ一つの概要を示す。五つの手順の具体については、【別紙資料】「道徳的実践プログラム」に示すこととする。

ア 手順1「生命尊重の視点を位置付けた道徳教育全体計画の作成」について
 各学校の道徳教育全体計画を作成する際に、「道徳教育の重点目標」に「生命尊重」の視点を位置付け、「道徳的实践プログラムにおける道徳教育指導方針」の項目を挿入する。具体的手順を【図4】に示す。



【図4】「生命尊重の視点を位置付けた道徳教育全体計画」作成の手順

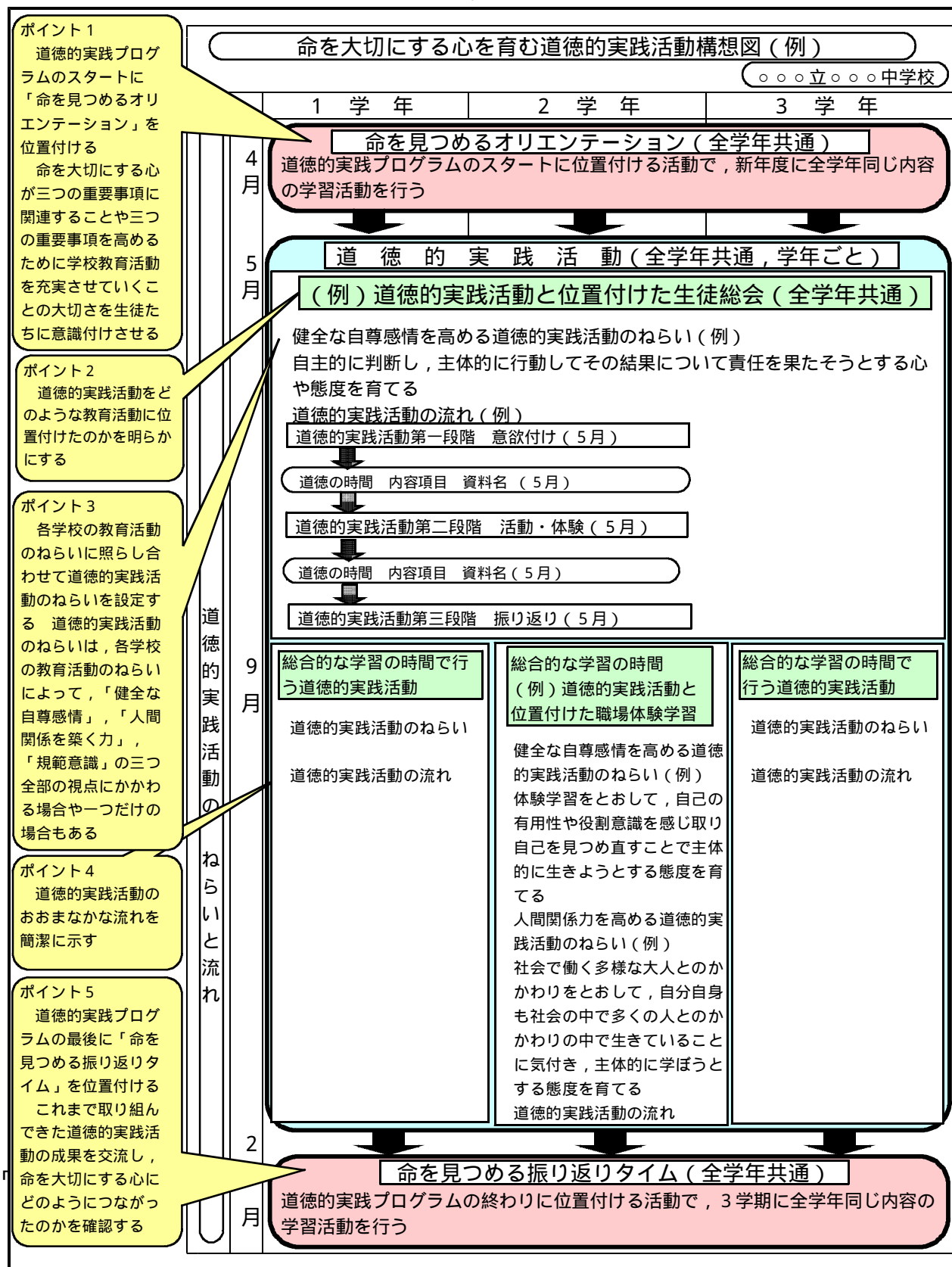
イ 手順2「道徳的实践活動場面の設定」について
 各学校の「道徳教育全体計画」に基づいて、道徳的实践活動の場面を学校教育活動に位置付ける。学校教育活動のどのような場面を道徳的实践活動に位置付けていくことができるのか三つの重要事項とのつながりも含めて【別紙資料】の「命を大切にすることを育む道徳的实践活動年間題材一覧表（例）」を参考にして、選択・決定する。

「命を大切にすることを育む道徳的実践活動年間題材一覧表（例）」 (印は、重要事項の要素を特に強く含んでいるととらえた事項です。)							
領域			題材	活動の主なねらい	三つの重要事項		
					健全な 自尊感 情	人間関 係を築 く力	規範意 識
特別 活動	学 校 行 事	儀 式 的 行 事	入学式	新入生の入学を喜び合い、新しい学校生活における夢や希望をもつ。			
			始業式	新学期に臨む意欲と新たな目標をもつ。			
			終業式	学期の成果と課題を確認し、長期休業に向けての目標をもつ。			
			卒業式	卒業生の卒業を喜び合い、それぞれの新しい生活への期待と目標をもつ。			
	行 事	体 育 的 行 事	体育祭	集団の中で自己の力を発揮すると同時に仲間と協力し合うことの大切さを学ぶ。			
			校内球技大会	仲間と協力し合って、よりよい関係を築こうとしたり、目標に向かって自分の役割を果たす。			
			地区陸上大会	応援や競技に目標をもって取り組む。			
	事	学 芸 的 行 事	文化祭	日常の学習活動の成果を発表し、創造的な力を培うとともに集団の中での仲間との協力や団結を深める。			

【図5】「命を大切にすることを育む道徳的实践活動題材一覧表（例）」抜粋

ウ 手順3「命を大切にする心を育む道徳的实践プログラム構想図の作成」について

各学校における道徳的实践活動の一年間の見通しや取組の内容を示した「命を大切にする心を育む道徳的实践プログラム構想図」を作成する。【図6】に「『命を大切にする心を育む道徳的实践プログラム構想図』作成の手順」を示す。



【図6】「命を大切にする心を育む道徳的实践プログラム構想図」作成の手順

エ 手順4「道德の時間の年間指導計画の作成」について

道德の時間の年間指導計画の作成にあたっては、「命を大切にする心を育む道德的实践プログラム構想図」に沿って設定する。そのために、年間指導計画の項目の中に「道德的实践活動との関連」という項目を挿入して、道德的实践活動との関連を明らかにする。道德の時間の年間指導計画の作成例を【図7】に示す。

第二学年「道德の時間」年間指導計画(例)						項目の中に「道德的实践活動との関連」を挿入する
月	内容項目	主題名	資料名 (発行社)	ねらい	心のノート の活用	道德的实践活動 との関連
4	3(2)	生命の尊重	〇〇〇〇〇	かけがえのない命の尊さに 気付き、家族や周りの人々の 愛情に感謝して、生きて いこうとする心情を育てる		特別活動 命を見つめる オリエンテー
4	2(3)	友情・信頼	〇〇〇〇〇〇	友情の尊さを理解し、互い に相手の立場になって行動 しようとする態度を育てる	P48, 49	特別活動 体育祭

【図7】「道德の時間の年間指導計画」の作成例

オ 手順5「道德的实践活動と道德の時間の指導展開略案の作成」について

各学校の「命を大切にする心を育む道德的实践プログラム構想図」に基づき、「道德的实践活動や道德の時間の展開略案」を作成して、道德的实践活動を推進する。「『道德的实践活動指導展開略案』作成の手順」を下図に示す。「道德の時間の指導展開略案」については、【別紙資料】に示すこととする。

ポイント1
各学校の教育活動のねらいの中に三つの重要事項に関連する内容がないかどうかを検討する

ポイント2
三つの重要事項に関連した事項を高めるため視点での道德的实践活動のねらいを設定する

ポイント3
道德的实践活動の具体的な実施日を計画する。道德の時間は重要事項に関連する内容項目から選択する

ポイント4
道德的实践活動となる特別活動などの単位時間における学習活動を示す

道德的实践活動と位置付けた文化祭指導展開略案(例)

～「人間関係を築く力」を高める道德的实践活動～

- 〇〇中学校の文化祭のねらい
 - 〇〇中文化の継承と新たな創造に向けた集団活動をとおして、成就感を味わわせるとともに集団への所属感を高める。
- 道德的实践活動のねらい

(人間関係を築く力を高める視点で)

 - 学級や学年の仲間との協力・団結をとおして、信頼・友情を育もうとする態度を育てる。
- 道德的实践活動の展開

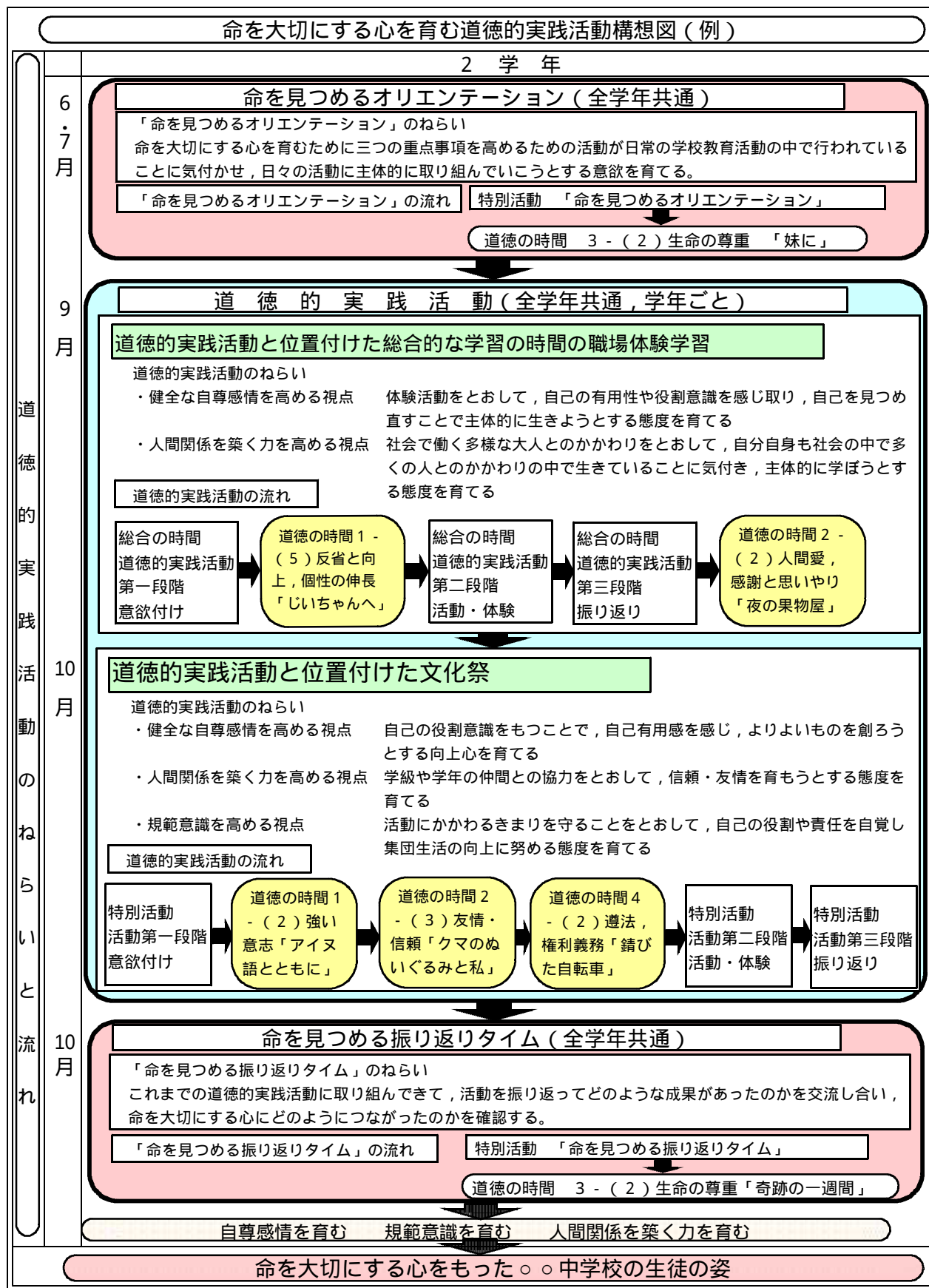
実施日	主 な 実 践 内 容
/	特別活動 道德的实践活動第一段階 文化祭に向けた意欲付け
/	道德の時間 2-(2)「感謝、思いやり」の価値を高める授業
/	道德の時間 2-(3)「友情・信頼」の価値を高める授業
/	特別活動〔学校行事〕道德的实践活動第二段階 体験・活動 文化祭
/	特別活動 道德的实践活動第三段階 文化祭の振り返り
- 展開略案

活動第一段階 設定時間【特別活動 学級活動「文化祭に向けた取組」】			
	学 習 活 動	生徒におさえさせたい事柄	指 導 上 の 留 意 点
導入	・昨年度の文化祭についての状況をまとめた資料を参考にして、資料の内容について感想を發表する。		・前時に書いた「見つめるシート」の結果をまとめた資料の提示から学級の生徒たちの文化祭に向けての意識をおさえさせる。

【図8】「『道德的实践活動展開略案』作成の手順」抜粋

カ 研究協力校における「命を大切にする心を育む道徳的实践プログラム構想図」

これまで述べてきた道徳的实践プログラムの作成の手順に沿って作成した研究協力校の2学年における「命を大切にする心を育む道徳的实践プログラム構想図」を下図に示す。



【図9】研究協力校における「命を大切にする心を育む道徳的实践プログラム構想図」

4 命を大切にすることを育む道徳的実践プログラムに基づく実践とその分析と考察

(1) 分析と考察の方法

実践の分析と考察の方法を【表2】に示す。

【表2】実践の分析と考察の方法

項 目	分析と考察の方法	具体的な手だて
道徳的実践プログラムの有効性	道徳的実践プログラムを活用した協力校の教職員の感想	道徳的実践プログラムの有効性について協力校の教職員の聞き取り調査の結果を分析・考察する
命を大切にすることを育む心身の育成状況	「命を見つめるオリエンテーション」と「命を見つめる振り返りタイム」で活用した「命を見つめるシート」の生徒の記述内容及び道徳的実践活動で活用した「命を見つめるシート」の生徒の記述内容 三つの重要事項にかかわる生徒の自己評価と自由記述 道徳的実践プログラムを活用した協力校の教職員の感想	「命を見つめるシート」の中の「命について、あなたが考えていることや思っていることを自由に書きなさい」という項目の記述内容が「オリエンテーション」「振り返り」でどのように変容したのか、過程となる道徳的実践活動の「命を見つめるシート」の記述内容も参考にしながら、三つの重要事項に照らし合わせてKJ法で分析し、考察を加える 「命を見つめる振り返りタイム」終了時に「命を見つめるオリエンテーション」からの数ヶ月を振り返って、三つの重要事項にかかわる意識面の生徒の自己評価と行動面の記述内容を分析・考察する 道徳的実践プログラムを活用しての生徒の命を大切にすることを育む心身の育成状況に関する協力校の教職員の聞き取り調査の結果を分析・考察する

(2) 実践記録

研究協力校における実践概要を【図10】、道徳的実践活動の概要を【資料1】～【資料3】に示す。本年度は2年生の1学級を対象に実践を行った。

命を見つめるオリエンテーション		
実施日	領域名	主な実践内容
6月30日(月)	道徳の時間	3-(2)「生命の尊重」の価値を高める「妹に」の授業 ねらい 命について見つめ直させ、かけがえのない自他の命を大切にしようとする心情を育てる。
7月3日(木)	特別活動	「命を見つめるオリエンテーション」 ねらい 命を大切にすることを育むために三つの重点事項を高める活動が日常の学校教育活動の中で行われていることに気付かせ、日々の活動に主体的に取り組んでいこうとする意欲を高める。
道徳的実践活動として位置付けた総合の職場体験学習【健全な自尊感情、人間関係を築く力を高める道徳的実践活動】		
実施日	領域	主な実践内容
8月25日(月)	総合の時間	道徳的実践活動 第一段階 職場体験活動に向けた意欲付け
9月8日(月)	道徳の時間	1-(5)「反省と向上、個性の伸長」の価値を高める「じいちゃんへ」の授業
9月10日(水) 11日(木)	総合の時間	道徳的実践活動第二段階 体験・活動 職場体験学習
9月12日(金)	総合の時間	道徳的実践活動第三段階 職場体験学習の振り返り
9月22日(月)	道徳の時間	2-(2)「人間愛、感謝と思いやり」の価値を高める「夜の果物屋」の授業
道徳的実践活動として位置付けた文化祭【健全な自尊感情、人間関係を築く力、規範意識を高める道徳的実践活動】		
実施日	領域	主な実践内容
9月26日(金)	特別活動	道徳的実践活動第一段階 文化祭に向けた意欲付け
10月6日(月)	道徳の時間	1-(2)「希望、勇気、強い意志」の価値を高める「アイヌ語とともに」の授業
10月14日(火)	道徳の時間	2-(3)「友情・信頼」の価値を高める「クマのぬいぐるみとわたし」の授業
10月20日(月)	道徳の時間	4-(2)「遵法、権利義務、社会の秩序と規律」の価値を高める「錆びた自転車」の授業
10月26日(日)	特別活動	道徳的実践活動第二段階 体験・活動 文化祭
10月29日(水)	特別活動	道徳的実践活動第三段階 文化祭の振り返り
命を見つめる振り返りタイム		
実施日	領域	主な実践内容
10月29日(水)	特別活動	「命を見つめる振り返りタイム」 ねらい これまでの道徳的実践活動を振り返って、どのような成果があったのかを交流し合い、命を大切にすることにどのようにつながったのかを確認する。
10月31日(金)	道徳の時間	3-(2)「生命の尊重」の価値を高める「奇跡の一週間」の授業 ねらい 命の有限性について考えることで、今を精一杯生きることや日常生活を大切にしていこうとする心情や態度を育てる。

【図10】道徳的実践プログラムを活用した実践概要

【資料1】「命を見つめるオリエンテーション」の実践概要

「命を見つめるオリエンテーション」

- 1 ねらい
 - ・中学生に命のもつさまざまな側面をイメージさせ、命を大切にする心を育むことが学校生活の中のあらゆる場面にかかわっていることを自覚させる。その上で、主体的に学校教育活動に臨もうとする意欲を高める。
- 2 研究協力校での実践日
 - ・1時間目（道徳の時間）3 - （2）「生命の尊重」
「妹に」の授業（東京書籍）6月30日（月）4校時
 - ・2時間目（特別活動）「学級活動」7月3日（木）3校時
- 3 実践対象学級 2年2組（男子15名、女子14名、計29名）
- 4 実践の概要

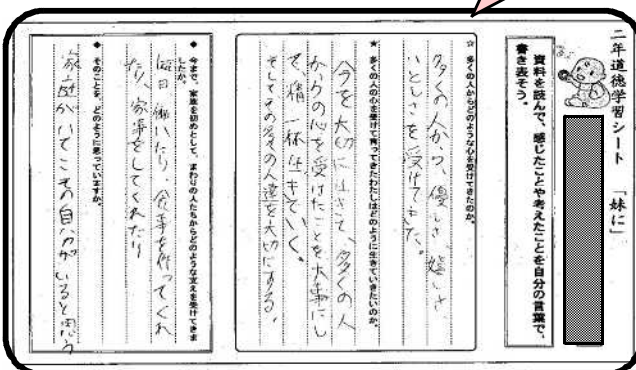
【1時間目 道徳の時間：資料名「妹に」（出典：東京書籍「明日をひらく2」）】

ねらい 道徳内容項目3 - （2）「生命の尊重」 生命の誕生をとおり、かけがえのない自他の命の尊さに気付き、家族や周りの人々の愛情に感謝しながら生きていこうとする心情を育てる。	
	主な教師のはたらきかけ
導入	1 今、自分が生きていることを振り返らせながら本時への意欲付けを行う。 ○今、生きているあなたを支えてくれたのはどんな人たちですか
	2 資料を範読する 3 資料を読んで、感動した箇所を発表させながら「妹の誕生」に対する家族のかけがえのない命を大切に育てていこうとする思いに共感させる。 ○資料を読んで、最も感動したところはどこですか そこにどんな感想をもちましたか
展開	4 詩の中の最後の連に注目させ、多くの愛を受けた人たちに感謝しながら生きていくわたしの喜びに気付かせる。 ○多くの人からどのような心を受けてきたのですか そのような多くの人々の心を受けて育ってきたわたしはどのように生きていきたいのか
	5 今まで、家族を始めとして、まわりの人たちからどのような支えを受けてきたのかを想起させて発表させる。 6 次時「命のオリエンテーション」の予告を行う。
終末	

【道徳シートに書き込む生徒の様子】



中心発問となる
「多くの人の心を受けて育ってきたわたしはどのように生きていきたいのか」は道徳シートに書かせて、発表に結び付けた



【実践で活用した道徳シートの生徒記述例】

道徳シートの記述は、大多数の生徒が、家族やまわりの人たちから多くの愛情を受けとっていることに感謝している内容が多かった。

【「命を見つめるオリエンテーション」の事前指導：短学活】実践日 6月30日（月）

ねらい 「命を見つめるオリエンテーション」の学習を充実させるために、事前に生徒の命に関する意識の状況を把握する。	
	主な教師のはたらきかけ
展開	・「命を見つめるシート」を配布して最近の人命を奪った事例を口頭で紹介し、意識付けさせる。 ・命について自分の考えや思いを「命を見つめるシート」に書かせる。
	「命を見つめるシート」の設問内容 今日、わたしたちの身の回りでは、命にかかわる出来事がたくさん起きています。なぜ、これらの出来事が起きると思うか。あなたの考えを書きなさい。 「命」について、今あなたが考えていることや思っていることを自由に書きなさい。

【2 時間目 「命を見つめるオリエンテーション」：特別活動 「学級活動」】

ねらい 命を大切にする心を育むために三つの重要事項を高めるための活動が日常の学校生活の中で行われていることに気付かせ、学校教育活動に主体的に取り組んでいこうとする意欲を高める。

	主 な 学 習 活 動	学 習 活 動 の 様 子
導 入	1 「命を見つめるシート」の回答集約プリントを見て、学習内容を確認する。	・「命を見つめるシート」の回答集約プリントは、事前指導で「なぜ、命に関する出来事が起こるのか」という質問項目に対して、生徒の考えを記述した内容を三つの重要事項の視点で分類したものを提示する。
展 開	2 「命を見つめるシート」の回答集約プリントをもとにして三つに分類した事項がどのような心なのかを確認する。 ○三つに分類した共通点を考えて、回答集約プリントに記入し、発表し合う。 ○三つに分類した事項がそれぞれ「自分も他人も大切にする心」、「まわりの人とよりよい関係を築こうとする力」、「善悪を判断し、まわりを考えて行動しようとする心」にかかわることを確認する。 3 課題を確認する。 命を大切にする心を育むために、日常の学校生活のどのような活動や場面を大切にしていけばよいのかを考えよう 4 三つの重要事項を高めることと日常の学校生活との関係を考える。 ○三つの重要事項を高めるために学校生活の中でどのような活動や場面が大切になるのかを考える。 ○三つの重要事項を高める学校生活の活動を考えて、それぞれの重要事項ごとに三枚の短冊を書く。 ○書いた短冊を各自黒板に掲示して、お互いの考えを確認し合う。	 命を大切にしない心の根底にある要因が「自分も他人も大切にする心」、「善悪を判断し、まわりを考えて行動しようとする心」、「まわりの人とよりよい関係を築こうとする力」の三つの重要事項が乏しいという点をおささせる。そのことで、これら三つの重要事項を高めていくことの大切さに気付かせた  三つの重要事項を高めるために学校生活の中でどのような活動が大切なのかを考えて、短冊に書かせた  三つの重要事項を高める学校生活の活動を書いた短冊を黒板に掲示して、三つの重要事項に結び付く根拠を発表し合った
終 末	5 今日の授業をとおして学んだことや感想をシートの裏面に書いて発表する。 日常の学校生活を大切にしていこうことや充実させていくことが、「自分も他人も大切にする心」、「まわりの人とよりよい関係を築こうとする力」、「善悪を判断し、まわりを考えて行動しようとする心」を高め、最終的に「命を大切にする心」につながることを意識付けをする。	【生徒の記述内容の例】 ・学校の三行事ではまわりの人とよりよい関係を築こうとする力を身に付けられるように毎日の生活の中から信頼関係を築いていきたい ・南中祭で、みんなと協力して、励まし合いながらやっていきたい。このクラスで卒業までいからみんな一人ひとりを大切にしていきたい

【資料2】「道徳的実践活動として位置付けた総合的な学習の時間の職場体験学習」の実践概要

「道徳的実践活動として位置付けた総合的な学習の時間の職場体験学習」

～「健全な自尊感情を高める」道徳的実践活動，「人間関係を築く力を高める」道徳的実践活動～

1 研究協力校の「総合的な学習の時間」における職場体験学習のねらい

- ・身近な地域の産業の職場体験をとおして、勤労の意義を考え、自分の将来の進路を見つめさせる

「健全な自尊感情を高める」道徳的実践活動の視点

- ・「地域から生き方を学ぶ ～花巻の発展のために～」をテーマとしているリサーチタイムの学習に役立てる。

「人間関係を築く力を高める」道徳的実践活動の視点

2 道徳的実践活動のねらい

健全な自尊感情を高める視点

- ・体験活動をとおして、自己の有用性や役割意識を感じ取り、自己を見つめ直すことで主体的に生きようとする態度を育てる。

人間関係を築く力を高める視点

- ・社会で働く多様な大人とのかかわりをとおして、自分自身も社会の中で多くの人とのかかわりの中で生きていることに気付き、主体的に学ぼうとする態度を育てる。

3 実践対象学級

2年2組（男子15名，女子14名，計29名）

4 道徳的実践活動の展開

実践日	学校教育活動名	主な実践内容とねらい
H20 8月25日 (月)	総合的な学習の時間	道徳的実践活動〔第一段階〕個人目標の設定と意欲付け 「職場体験学習」に向けてねらいを確認させ、主体的に取り組もうとする意欲を高める。
9月8日 (月)	道徳の時間	道徳内容項目1-（5）「反省と向上，個性の伸長」の価値を高める授業 資料名「じいちゃんへ」（出典：文部省道徳教育推進指導資料～「中学校読み物資料とその利用」～） 《健全な自尊感情を高める視点》 自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性や適性を伸ばして充実した生き方を追求しようとする意欲を育てる。
9月10日 11日 (水・木)	総合的な学習の時間	道徳的実践活動〔第二段階〕活動・体験 職場体験学習の実施
9月12日 (金)	総合的な学習の時間	道徳的実践活動〔第三段階〕活動の振り返り 「職場体験学習」を振り返り、活動の成果を確認し合うことで達成感や成就感をもたせ、次の活動への意欲付けを図る。
9月22日 (月)	道徳の時間	道徳内容項目2-（2）「人間愛，感謝と思いやり」の価値を高める授業 資料名「夜の果物屋」（出典：東京書籍「明日をひらく2」） 《人間関係を築く力を高める視点》 人の親切に素直に感謝し、他の人に対しては思いやりの心をもって接しようとする心情を育てる。

5 実践の概要

道徳的実践活動第一段階 意欲付け	【総合的な学習の時間：「職場体験学習に向けて」】	
	道徳的実践活動のねらい 「職場体験学習」に向けてねらいを確認させ、主体的に活動に取り組もうとする意欲を育てる。	
	主な学習活動	学習活動の様子
	導入 1 オリエンテーション 「職場体験学習」の取組の概要を確認し、今後の活動に対する見通しをもつ。	 なぜ、この活動をするのかねらいを生徒たちに考えさせることで、主体的に活動に取り組もうとする意欲付けをした
	展開 2 課題意識づくり 活動のねらいを考え、「総合の学習見つめるシート」に書く。 3 ねらいの確認 生徒の発表をとおして、教師が活動のねらいを確認する。	
	開 4 活動に対する個人目標の設定 5 個人目標の発表交流	 生徒の発表を認め、励ましてこれからの「職場体験学習」に前向きに取り組もうとする意欲付けをした
	終末 6 教師の説話 職場体験学習に向けて教師の願いを聞く。	

健全な自尊感情を高める道徳の時間	【道徳の時間：「じいちゃんへ」(出典：文部省道徳教育推進指導資料「中学校読み物資料」)】	
	ねらい 道徳内容項目1-(5)「反省と向上、個性の伸長」 自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性や適性を伸ばして充実した生き方を追求しようとする意欲を育てる。	
	主な教師のはたらきかけ	学習活動の様子
	導入 1 職場体験活動の想起 職場体験学習で、どんなことを学んできたか	 この授業では、自分の考えを道徳シートに書いて、書いたことをもとに発表する授業展開を図った 全員が自分の考えを発表できたことを認め、次の道徳の時間への意欲へとつなげた
	展開 2 資料を範読して、価値を追求及び把握させる。 「大工一筋に生きたい」という僕にはどんな気持ちがあると思うか 「大工一筋に生きたい」という僕の考えをどう思うか 3 心のノートを活用して、価値の主體的自覚を図る。 「あなたらしさがあなたの個性」の「自分のこんなところをこうしたい」という箇所に記入して発表し合う	
	終末 4 職場体験学習のねらいを想起させながら、価値への関心の継続を図る。	道徳の時間の終末部分で、道徳的実践活動にかかわる説話を意図的に行うことで、道徳的実践活動との関連を意識付けさせた

道徳的実践活動第二段階 活動

【総合的な学習の時間：「職場体験学習」】

道徳的実践活動のねらい

個人目標の達成に向けて、仲間とともに「職場体験学習」に取り組む。



教師は職場体験の訪問先で、個人目標が達成できるように活動の感想を聞いたり、励ましの声をかけたりした



道徳的実践活動第三段階 活動の振り返り

【総合的な学習の時間：「職場体験学習の反省」】

道徳的実践活動のねらい

「職場体験学習」を振り返り、活動の成果を確認し合うことで、達成感や成就感をもたせ、次の活動への意欲付けを図る。

	主な学習活動	学習活動の様子
導入	1 職場体験学習の想起 「職場体験学習」の感想を聞くことで、活動を想起する。	 生徒の発表を認め、励まして「職場体験学習」の成果を確認し合う中で、生徒たちに達成感や成就感をもたせた 職場体験学習で心に残ったエピソードを紹介しながら、今回の活動でどのような心の成長がみられたのか教師の感動を生徒に伝えた
展開	2 職場体験学習の振り返り 体験学習をとおして、学んだこと、個人目標に対する自己評価を「総合の学習の見つめるシート」に書く。 「総合の見つめるシート」をもとに、学んだことを発表する。	
開	3 活動の成果の交流 「総合の見つめるシート」をもとに、個人目標に対して、自分自身の行動や気持ちを発表する。	
終末	4 教師の説話	

人間関係を築く力を高める道徳の時間

【道徳の時間：「夜の果物屋」（出典：「明日をひらく2」東京書籍）】

ねらい

道徳内容項目2-（2）「人間愛、感謝と思いやり」
人の親切に素直に感謝し、他の人に対しては思いやりの心で接しようとする心情を育てる。

	主な教師のはたらきかけ	学習活動の様子
導入	1 本時の価値への方向付けを図る 職場体験学習活動のどんな場面で「ありがたいな」と感じたか	 道徳の時間の導入部分で、道徳的実践活動にかかわる発問を意図的に行うことで、道徳的実践活動との関連を意識付けさせた この授業では、発問のポイントとなる行動や会話を紙板書にして、主人公の気持ちに共感させながら感謝や思いやりの心について考えさせた
展開	2 資料を範読し、価値を追求及び把握をさせる。 合唱部の練習で帰りが遅くなる少女は、毎晩どんな気持ちで帰宅していたと思うか 暗やみの中に果物屋の明かりが毎晩ともし続けられていることで少女はどんな気持ちになったと思うか どうして、少女は「この店の明かりがあんなに温かく見えたのは、当然だった」と感じたのだろうか	
終末	3 価値を振り返らせる。 日常生活の中で誰にどんなことで感謝した経験があるか その時、どんなことを感じたか	

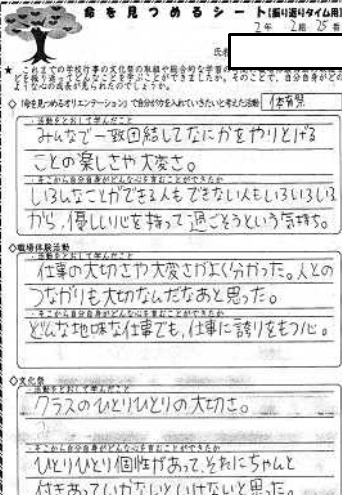
【資料3】「命を見つめる振り返りタイム」の実践概要

「命を見つめる振り返りタイム」

1. ねらい
 - ・ 1時間目（特別活動） 1学期に行った「命を見つめるオリエンテーション」を受けて取り組んできた道徳的実践活動を振り返ってどのような成果や成長があったのかを交流し合い、命を大切にする心にどのようにつながったのかを確認し合う。
 - ・ 2時間目（道徳の時間） 命について見つめ直させ、かけがえのない自他の命を大切にしようとする心情を育てる。
2. 研究協力校での実践日
 - ・ 1時間目（特別活動） 「学級活動」 10月29日（水）4校時
 - ・ 2時間目（道徳の時間） 3 - （2）「生命の尊重」 「奇跡の一週間」（東京書籍） 10月31日（金）5校時
3. 実践対象学級 2年2組（男子15名、女子14名、計29名）
4. 実践の概要

【1時間目】「命を見つめる振り返りタイム」：特別活動「学級活動」

ねらい これまで取り組んできた学校教育活動を振り返って、どのような成果や成長があったのかを交流し、命を大切にする心にどのようにつながったのかを確認する。

	主 な 学 習 活 動	学 習 活 動 の 様 子
導 入	1 「命を見つめるオリエンテーション」から、これまで取り組んできた職場体験学習や文化祭をとおして、力を入れて取り組んできたことやそこから学んだことを想起する。 2 「命を見つめるオリエンテーション」で確認した三つの重要事項を想起する。	・それぞれの活動で取り組んできた個人目標や反省を記述した「見つめるシート」を生徒個々に配布しながら、これまでの自らの活動を振り返らせた。
展 開	3 課題を確認する。 これまで取り組んできた学校教育活動を振り返って自分が学んだことや成長できたことを交流し合おう 4 これまでの学校教育活動を振り返って、成果や心の成長を確認し合う。 ○「命を見つめるオリエンテーション」で自分が特に力を入れて取り組みたいと決めた活動を始め、「職場体験学習」や「文化祭」の成果を「命を見つめるシート」に書く。 ○「命を見つめるシート」に書いたことをもとに活動の一つに絞って、心の成長を短冊に書く。 ○書いた短冊の内容が三つの重要事項のどの事項に関係するかを考えて、各自黒板に掲示する。 ○活動をとおりして、お互いの成果や成長を発表し合い、お互いを認め合う。	道徳的実践活動の中から一つを選択して活動をとおりして自分自身が成長したことを短冊に書かせた 書いた短冊を黒板に掲示して、三つの重要事項にどのように結び付いたのかを発表し合い、お互いの成果や成長を認め合った  
結 末	5 教師の説話を聞く。 ○それぞれの心の成長が命を大切にする心に結び付くことを確認する。 6 次時が「生命尊重」にかかわる道徳の時間であることを確認する。	

【実践で活用した「命を見つめるシート」の記述例】

【2時間目 道徳の時間：資料名「奇跡の一週間」（出典：東京書籍「明日をひらく2」）】

ねらい 道徳内容項目3-（2）「生命の尊重」
命の有限性について考えることで、今を精一杯生きることや日常の生活を大切にしていこうとする心情を育てる。

	主な教師のはたらきかけ	学 習 活 動 の 様 子
導 入	1 本時の価値への方向付けを行う。 「ホスピス」という言葉を聞いたことがあるか どのような意味をもつ言葉なのか	【授業の様子】 
展 開	2 資料を範読し、価値の追求及び把握を図る。 「ホスピスで患者さんが亡くなる時、悲しくないの」という問いに対して、わたしが「むっとしていた」のはどうしてか 北村さんにさし絵を描いてくれるように依頼したわたしの気持ちが変化したのは、わたしにどのような気持ちがあったからだと思うか 「北村さんは、いっしょうけんめい『生きていた人』」という言葉からわたしは、「生きること」とはどんなことだと感じていたと思うか	北村さんの生き方から、生きることとは、今自分がやるべきことを精一杯やることや毎日を大切にしていこうことに気付くことができるような展開を図った
終 末	3 教師の説話 「心のノート」P76「いつか終わりがあること」を範読する。	

【授業後の生徒の感想 一部紹介】

今日の道徳の授業で、『北村さんは、死んでしまった人』ではなくて、『いっしょうけんめい生きていた人』というわたしの言葉が印象に残りました。もうじき死ぬとわかっていても投げやりにならずに、毎日パソコンでイラストを精一杯描くことに取り組む姿から自分の命をかがやかせようとする北村さんの姿に感動しました。今やるべきことに打ち込むことが大切だと思いました。

最後までやりきることの大切さを学んだ。生きるとは、最後までやりきること、今の自分にとって部活動を生懸命やること。

【「命を見つめる振り返りタイム」の取組後の生徒の声を集めた道徳通信「温もり」】

道徳通信 温もり

ぬく



発行責任者 小石 孝紀
2008.11. 5 第6号

命を見つめる振り返りタイムを終えて

これまで約半年間にわたってみなさんに「命を大切にすること」を毎日の学校生活を大切にしていくことで、見つけ直してほしいという願いで道徳の時間を中心に特別活動や総合的な学習の時間などの授業を実践したり、参観させていただきました。最後に授業した「命を見つめる振り返りタイム」の時間の皆さんの感想からは、「自分やまわりの人を大切にすること」や「今、やるべきことを大切にしたり、充実させていくこと」が「命を大切にすること」につながるのではないかと内容の記述がたくさん見られました。ここでは、その中の数名の感想を紹介します。

「命」について、今あなたが考えていることや思っていることを自由に書きなさい

- ・みんな生きている人だから、周りのみんなを大切に生きていきたいと思った。命は一人に一つしかないから、自分も他人も大切にしなければいけないと思う。
- ・たくさんの人ともっともっと出会いたい。大人になるのも楽しみたいけど、命はいつなくなるかわからないから、悔いの残らないように「今」を精一杯生きたい。
- ・人はいつ死ぬのかわからないから一日一日を大切にしたい。
- ・たった一つの命だから大切にしていきたい。生きていけば大変なこともあると思うけど、それを乗り越えていけるようになりたいです。いろいろな犯罪や事件などがあって、命を軽く考えている人がいて悲しい。みんなと仲良く協力していきたい。つらいことがあっても、がんばりたい。
- ・自分も悪口を言ったり、言われて感情をおさえきれなくてつい言ってしまったりする時があるから自分からやめるようにする。
- ・「死ぬ」という言葉を軽い気持ちで言うってはいけない！やっぱり言葉遣いを気をつけたいと思います。
- ・悔いが残らないように生きたい。
- ・命とは生まれてから死ぬまでのすべてだと思うので生きている間に自分以外の人や生き物などに何かをして自分の命を良かったと思えるものにしたい。
- ・人を大切にすること。家族を大事にしている。
- ・今の世の中は命を粗末にしようから、もっと自分のことを見つめればいいと思う。
- ・誰でも命はあるから周りの人を大切にしたい。
- ・まわりの人ともっといい関係になれるようにしたい。
- ・悔いがないように自分自身の判断で物事を決めることができるようになりたい。

これからのみなさんの中学時代が充実したものになることを期待しています。

(3) 実践の分析と考察

ア 道徳的实践プログラムの有効性について

道徳的实践プログラムの有効性を確かめるために研究協力校の教職員を対象にした「道徳的实践プログラムの活用にかかわる意識調査」を行った。質問項目に対する評定尺度と自由記述の結果を【表3】に示す。

【表3】研究協力校の教職員における道徳的实践プログラムの意識調査の結果

(n = 8)				
項 目	評 定 尺 度			
道徳的实践プログラムの有効性	かなり有効であった	概ね有効であった	あまり有効でない	全く有効でない
道徳的实践プログラムの一連の流れの有効性	2	6	0	0
道徳的实践活動の一連の流れの有効性	2	6	0	0
道徳的实践活動と道徳の時間の関連の有効性	2	4	2	0

主な記述内容 (n = 8)	
道徳的实践プログラムの一連の流れの有効性 - 一連の活動や学びをその場だけの個々に行うのではなく、道徳の時間で養った道徳的心情や態度を道徳的实践活動という行動につないだ意義は大きい。(2 名) 「命」からスタートし、日常的道徳的な実践活動を経て、「命」に戻る一連の流れはとてもよく考えられており、有効であった。(3 名) 道徳的实践活動の一連の流れの有効性 - 学校は多忙なので、事前指導のみで終わることもある。次に繋ぐためにも活動についての生徒個々の意識付けができたこと、振り返りができたことはとても良かった。「目標」から「実践」、そして、「反省・振り返り」はどんな活動にも必要であることを改めて感じた。(5 名) - 活動に入るためにその意欲付けを行い、意味をもたせることは、実践や体験活動そのものが充実した意味深いものになるのでよいと思う。(2 名) 道徳的实践活動と道徳の時間の関連の有効性 - 生徒の実態や他の教育活動との関連で道徳の時間の内容を設定することは必要なことだと思う。道徳的实践プログラムでは、道徳の時間と活動をスムーズに結び付けることができたのではないと思う。(3 名) - 道徳の授業をとおして、様々な行動や活動のもつ意味や価値について一人一人の考えを共有したり、発見したりすることは、道徳的实践活動そのものを充実させることに大きく繋がってくると思う。(2 名)	

(ア) 道徳的实践プログラムの一連の流れの有効性について

道徳的实践プログラムの一連の流れについて、研究協力校の教職員から有効であったという結果が得られた。「命を見つめるオリエンテーション」で学校教育活動を大切にしたり、充実させたりすることが三つの重要事項を高めることにつながり、そのことが命を大切にする心に結び付くということを生徒たちに意識付けさせて道徳的实践活動に取り組むことの重要性について概ね理解が図られたと考える。しかし、「『命を見つめる』という観点が生徒に十

分浸透していないと感じた」という記述や、「『命を見つめる振り返りタイム』時には、『命を見つめるオリエンテーション』での意識付けが忘れ去られていた」という記述もみられ、課題が浮き彫りになった。道徳的实践プログラムの一連の過程の中で数回「命を見つめるオリエンテーション」で意識付けした三つの重要事項を想起させ、それまでの過程を振り返らせながら改めて意欲付けを図る場面が必要であったと考える。

(イ) 道徳的实践活動の一連の流れの有効性について

道徳的实践活動の一連の流れについて、研究協力校の教職員から有効であったという結果が得られた。道徳的实践活動第二段階の活動・体験の事前に目的意識をもたせたり、意欲付けを行ったりすることや、事後に活動に対する振り返りを行い、活動の成果を交流し合うことの大切さについて概ね理解が図られたと考える。

課題としては、「道徳的实践活動については、学校行事だけでなく日常生活の係活動や清掃などに関連させた取組も必要だったのではないか。」という記述もみられた。日常生活の取組を毎日学級の短学活などで評価しながら三つの重要事項の育成を日常的に図る道徳的实践活動をプログラムに挿入していくことが大切であるととらえる。

(ロ) 道徳的实践活動と道徳の時間の関連の有効性について

道徳的实践活動と道徳の時間の関連について、研究協力校の教職員から概ね有効であったという結果が得られた。道徳的实践活動のねらいに即して道徳の時間において関連する内容項目の価値の自覚を図ることや、道徳の時間の中の導入や終末部に道徳的实践活動にかかわる発問や説話をを行い、道徳的实践活動に対する意識付けを図ることの大切さについて概ね理解が図られたと考える。しかしながら、この項目に関しては評定尺度で「あまり有効でなかった」という評価もみられた。「『道徳の授業』から『実践活動への意欲付け』に強引さを感じるところもあり、生徒にとって、価値の押し付けにならないか」という記述もみられた。道徳の時間の内容と道徳的实践活動の内容面の関連だけにこだわらずに、道徳の時間と道徳的实践活動のねらいをよく吟味して、ねらいに沿った導入、終末部分の発問や説話を弾力的に行う必要があると考える。

道徳的实践プログラムの実践については、今回一学級を中心に学年の教職員の協力を得ながら推進してきたが、「学校教育活動の中で効果的に行うためには、学年全体、さらには学校全体で足並みを揃えて実践することでさらに大きな効果が上がるのではないか」という記述もみられた。学校教育活動のねらいや内容の見直しを行い、明確な関連性を打ち出したプログラムを作成し、全教職員の共通理解のもとに推進していくことが生徒の心の育成を図る上で重要であるととらえる。そのためには、各学校における道徳的实践プログラムの内容を作成しやすい簡潔なものにすること、作成した道徳的实践プログラムの推進方法を新年度に全職員で共通理解すること、道徳的实践活動の事前に教職員による綿密な打ち合わせを行うことが大切である。以上のことから道徳的实践プログラムの流れや内容は生徒の命を大切にすることを育む上で有効であるという見通しをもつことができた。

イ 命を大切にすることの育成について

(ア) 命に関する生徒の自由記述から

「命を見つめるオリエンテーション」と「命を見つめる振り返りタイム」時に行った「命について感じたり、考えたりした自由記述」について事前事後の生徒の記述をもとにして生徒の意識

の変容を分析・考察するためにKJ法（川喜田，1967）を行った。分類した結果を【表4】に示す。

【表4】命に関する生徒の記述分類表

（n = 26）

設 問 「命について感じたり，考えたりしたことを自由に書きなさい」								
	「命を見つめるオリエンテーション」事前				「命を見つめる振り返りタイム」事後			
生徒	健全な自尊感情	人間関係を築く力	規範意識	その他	健全な自尊感情	人間関係を築く力	規範意識	その他
1	精一杯生きていきたい				自分自身の判断で物事を決めたい			
2				命は大切				命は大切
3				特に何も感じない		関わる人を大切にしたい		
4				命は大切	精一杯生きていきたい			
5	人の役に立ちたい	人の役に立ちたい						人生の財産
6			人を傷付けてはだめだ	命は大切	もっと自分を見つめることが大切			命の連続性
7				命は大切	毎日を大切にしたい			命は大切
8			人を傷付けてはだめだ	命は大切	生きている間に人や生き物に何かをして精一杯生きていきたい	生きている間に人や生き物に何かをして精一杯生きていきたい		
9				命は大切		関わる人を大切にしたい		
10				命は大切			命が縮むから麻薬はだめだ	命の連続性 曾祖母が亡くなった
11				命は大切		関わる人を大切にしたい		人生
12				無回答	命を大事にしたい	関わる人を大切にしたい		命は大切
13				命は大切	命 = 自分 生きていること自体がすごく嬉しいことだ			
14				命は大切	命を大事にしたい			命は大切
15	家族に支えられている	家族に支えられている						命は大切
16	命を大事にしたい			命は大切	精一杯生きていきたい			
17			命を粗末にしている人がいて悲しい	命は大切	命を大事にしたい	関わる人を大切にしたい		命は大切
18	命を大事にしたい				命を大事にしたい 精一杯生きていきたい			命は大切
19				命は大切	命を大事にしたい			命は大切
20				命は大切	精一杯生きていきたい			
21	精一杯生きていきたい				自分は今まで何度も命を粗末にしていた 精一杯生きていきたい		人を傷付けてはだめだ	
22			人を傷付けてはだめだ	命は大切			人を傷付けてはだめだ	命は大切
23	命を大事にしたい			命は大切	自分も他人も大切にしたい	関わる人を大切にしたい		
24			人を傷付けてはだめだ		命を大事にしたい			
25	命を大事にしたい			命は大切	普通の生活の中で「死ね」という言葉を軽々しく使ってはいけない	「死ね」という言葉を軽々しく使ってはいけない	「死ね」という言葉を使ってはいけない	命は大切
26	命を大事にしたい			命は大切 命の有限性	精一杯生きていきたい	たくさんの人ともっと出会いたい		

【表４】の結果から、事前、事後ともに自他の命を大事にし、精一杯生きていきたいという「健全な自尊感情」にかかわること、まわりの人を大切にしていきたいという「人間関係を築く力」にかかわること、人を傷付ける行為が絶対にあってはならないという「規範意識」にかかわることの三つの分類が成された。事前の記述と事後の記述を比較するとそれぞれ三つの分類ともに観念的内容から学校や家庭生活など具体的な社会生活にかかわる内容に変容した記述が増えている。例えば、「命は大切である」という観念的な記述から自らの家族の死や社会のニュースなど具体的な現象を取り上げ、それに対する自らの感情を書き込んでいた記述がみられた。また、「人を殺してはいけない」という事前の記述から、「友人に『死ね』と言わないようにしたい」と自らの行動を振り返る記述がみられた。

さらに、事後においては、命にかかわる自らの生き方に触れるような記述が増えた。その事例として、ある生徒は、「命を見つめるオリエンテーション」時では、「命は大切なものだ」という観念的なとらえをしていた。しかし、道徳的実践活動に取り組むことによって実践活動としてとらえた職場体験学習後では、「仕事の大変な中にやりがいや楽しさがあるからこそ仕事を続けることができるのだということを実際に仕事をして学んだ」という「健全な自尊感情」の高まりをみいだすことができた。さらに、その後の実践活動としてとらえた文化祭後では、「みんなで一生懸命団結することの大切さ、最後までやり通すことの大切さを学ぶことができた」という「健全な自尊感情」や「人間関係を築く力」の高まりをみいだすことができた。そして、最後の「命を見つめる振り返りタイム」では、「自分の命も他人の命も大切にしていきたい。学級のみならず仲良くしていきたい。つらいことがあってもそれを乗り越えていけるようになりたい」という記述に変容した。観念的にとらえていた命を道徳的実践活動を繰り返す中で、自分自身の行動面からとらえることができるようになったと考える。

このように、事前、事後の記述を比較すると命のとらえが、観念的な記述から、具体的な事象を取り上げ、自分の体験や生活に結び付けたり、三つの重要事項にかかわる自らの行動として考えたりする記述が増えており、変容がみられた。

(4) 研究協力校の教職員による命を大切にする心の育成状況に関する意識調査から

先に述べた研究協力校の教職員を対象にした「道徳的実践プログラムの活用にかかわる意識調査」では、「プログラムを活用することで生徒の命を大切にする心の育成状況は育まれたか」という観点についても意識調査を行った。質問項目に対する評定尺度の結果を【表５】に示す。

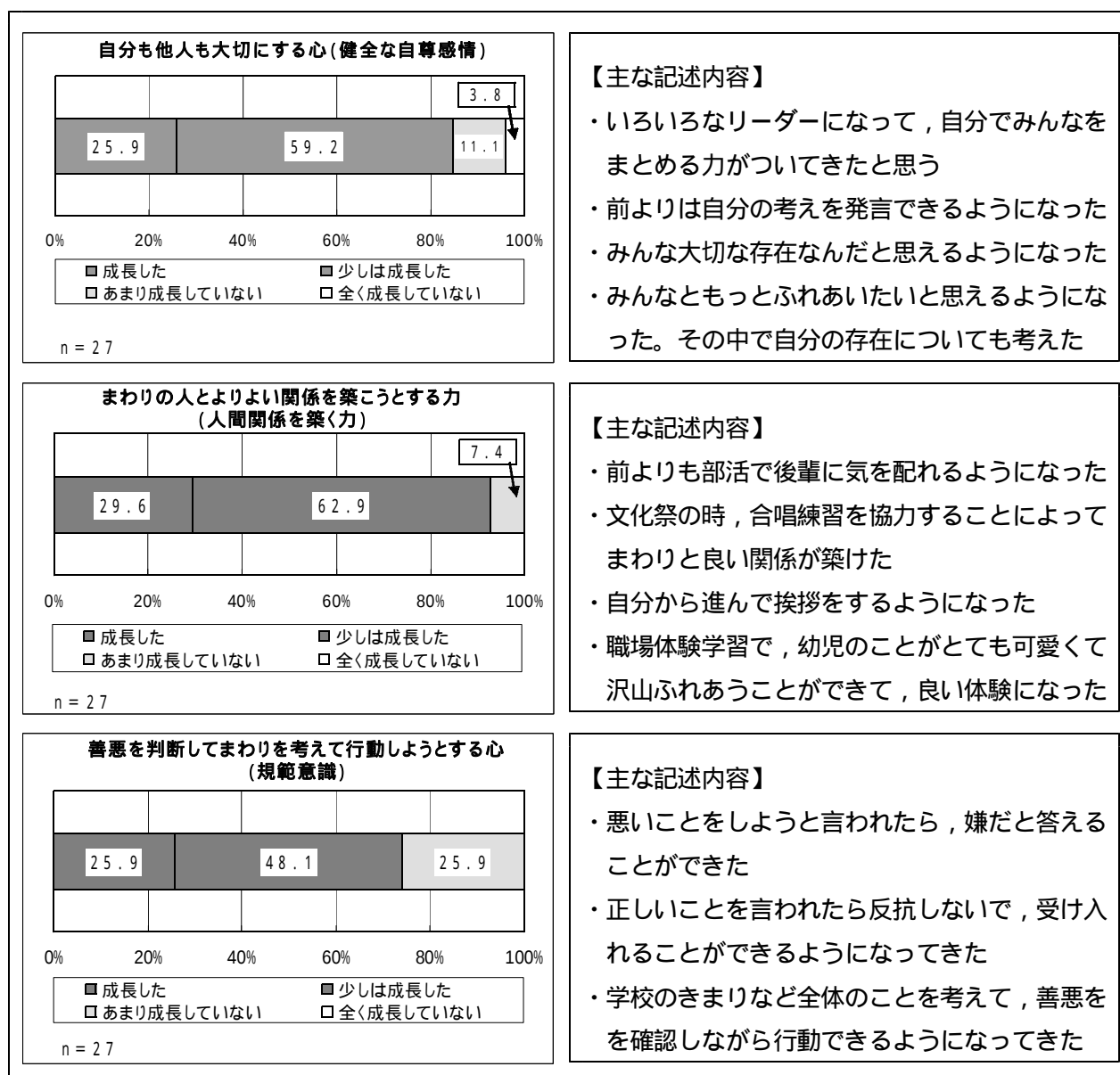
【表５】研究協力校の教職員における道徳的実践プログラムの意識調査(「生徒の心の育成状況」)の結果
(n = 5)

項 目	評 定 尺 度				
道徳的実践プログラムを活用することで、対象となった生徒たちの命を大切にする心の育成状況について	かなり高まった	概ね高まった	あまり高まらなかった	全く高まらなかった	無回答
(1) 命を大切にする心の育成状況	0	3	0	0	2
(2) 健全な自尊感情「自分も他人も大切にすること」の育成状況	0	5	0	0	0
(3) 人間関係を築く力「まわりの人とよりよい関係を築く力」の育成状況	0	4	1	0	0
(4) 規範意識「善悪を判断し、まわりを考えて行動する心」の育成状況	0	3	1	0	1

【表5】の結果から、道徳的实践プログラムを活用したことによる生徒の命を大切にする心の育成状況について概ね高まってきているという結果がみられた。「道徳的实践活動の職場体験学習や文化祭などの取組時で、生徒たちの自尊感情や人間関係を築く力の高まりを感じた」という記述がみられた。また、「道徳通信『温もり』の生徒たちの記述内容から心の成長がみられたのではないか」という記述もあった。その反面、生徒たちは三つの重要事項の大切さは感覚的には理解しているものの行動面になってみえない」という記述もみられた。また、無回答もあり、聞き取り調査を行った結果、「生徒個々について意識の変容はみられる者もいるが、集団として日常の言動などから変容をみてとることの難しさがある」という感想があり、心の育成状況をみることの難しさが指摘され、意識調査の設問内容や方法そのものを吟味する必要があった。

(り) 三つの重要事項に関する生徒の意識調査から

「命を見つめる振り返りタイム」終了時に生徒自身の三つの重要事項が育まれてきたかどうかを自由記述を含めて、自己評価させる意識調査を実施した。結果を【図11】に示す。



【図11】生徒の意識調査結果（心の成長の自己評価）

【図5】の結果，三つの重要事項ともに概ね育まれてきているという生徒自身の自己評価であった。

「自分も他人も大切にする心」に関しては，「みんなともっとふれあいたいと思えるようになった。その中で，自分の存在についても考えられた」という記述がみられた。「人間関係を築く力」と「健全な自尊感情」の両面の要素があり，二つの重要事項の高まりが感じられる記述である。今後，他の存在やかかわりにも目を向けさせて，自他ともにかげがえのない存在であることに留意した道徳的実践活動の取組を図っていくことが大切であると考ええる。

「まわりの人とよりよい関係を築こうとする力」に関しては，道徳的実践活動としてとらえた職場体験学習や文化祭の活動をとおして，行動面での成長がみられる記述が多くあった。職場体験学習では，「訪問先の人たちとのふれあいをとおして，周りの人の存在について考えるようになった」という記述がみられた。また，文化祭では「級友などと協力することで，学級の仲間の大切さを感じた」という記述がみられた。道徳的実践活動という体験や活動を重ねていくことで，道徳的実践力の高まりにつながる一例であるにとらえる。

「善悪を判断して，まわりのことを考えて行動しようとする心」に関しては，三つの重要事項の中で，「あまり成長していない」と答えた割合が一番多かった。「行事の時や日常の授業中など周囲のことを考えずに行動している時があった」という記述内容もあり，自分自身の行動を見つめ直すことができていることを「規範意識」の高まりとしてとらえたい。生徒の自己評価の結果から，生徒の実態を考えると「規範意識」を高めるための道徳的実践活動や道徳の時間を重視した取組が今後求められるにとらえる。

以上，「命に関する生徒の自由記述の事前事後の比較」，「教職員による生徒の命を大切にす
る心の育成状況の意識調査」，「三つの重要事項に関する生徒の意識調査」の結果から，道徳的
実践プログラムを活用した結果，生徒の命を大切にす
る心の育成について育まれてきており，道
徳的実践プログラムが生徒の命を大切にす
る心を育む上で有効であるという見通しをもつことが
できた。

4 命を大切にす る心を育む中学校道徳教育に関する研究のまとめ

中学校における命を大切にす
る心を育む道徳的実践プログラムの作成をと
おした指導実践と，そ
の分析・考察によって明らかになった成果と課題についてまとめる。

(1) 成果

ア 「命を見つめるオリエンテーション」から「命を見つめる振り返りタイム」まで，命を見つ
めることから始まり，三つの重要事項を高める道徳的実践活動を行い，再び命を見つめること
に戻る道徳的実践プログラムの一連の流れが有効であるという見通しをもつことができた。

イ 道徳的実践活動における第一段階の意識付けや個人目標の設定など活動の意義を考えさせ，
目的意識をもたせることによって意欲を高め，第三段階の活動に対する振り返りで成果や課題
を交流し合いながらお互いを認め合う一連の流れが有効であるという見通しをもつことができ
た。

ウ 道徳的実践活動と道徳の時間を意図的に関連させることで，道徳の時間の価値の自覚の高ま
りを道徳的実践活動の行動面につなげる手だてが有効であるという見通しをもつことができた。

エ 道徳的実践プログラムの推進を図る中で、研究協力校の教職員の道徳教育の指針として道徳的実践プログラムが役立つものという見通しをもつことができた。

オ 道徳的実践プログラムは、研究協力校の教職員と研究対象の生徒自身から見て、命を大切に
する心を育む上で有効であるという見通しをもつことができた。

(2) 課題

ア 道徳的実践プログラムの推進は、全教職員の共通理解のもと学年、学校全体で指導実践を
重ねることで、有効性をさらに検討する必要がある。

イ 生徒の心の変容を図るために日々の学校活動の中で道徳性を高めるための日常的な教育活
動を道徳的実践活動としてプログラムの中に盛り込んでいく必要がある。

以上のことから、本研究で作成した道徳的実践プログラムは、命を大切にする心を育む上で効
果があり、中学校道徳教育の指導の改善に役立つという見通しをもつことができた。

研究のまとめ

1 研究の成果

本研究は、中学校において、命を大切にする心を育むために効果的な道徳の時間の指導方法や
道徳的実践活動の計画の在り方を示した道徳的実践プログラムを作成し、命を大切にする心を育
む中学校道徳教育の推進に資するものである。研究の成果と課題を整理してまとめとする。

(1) 命を大切にする心を育むための道徳的実践プログラムの作成

日常の学校教育活動を大切にしていけることが、生徒の命を大切にする心の育成につながる。

そのために、「健全な自尊感情」、「人間関係を築く力」、「規範意識」の三つの重要事項を
高めるための道徳的実践活動を学校教育活動の中に位置付けて繰り返し実践していくことが、
中学校における命を大切にする心をもった生徒の育成につながるという研究の基本的な考え方
を示すことができた。

その考え方を基に「命を見つめるオリエンテーション」から「命を見つめる振り返りタイム」
までの一連の道徳的実践活動の流れや道徳的実践活動と道徳の時間との関連を位置付けた「道
徳的実践プログラム」を作成することができた。

さらに、「道徳的実践プログラム」の中に、各学校の道徳教育の推進を図るためのプログラ
ム作成の手順と指導計画例、研究協力校における道徳的実践活動や道徳の時間の指導展開案を
示すことができた。

(2) 命を大切にする心を育むための道徳的実践プログラムを活用した指導実践及び実践結果の分 析と考察

研究協力校における指導実践をととして、教職員の感想・聞き取りから道徳的実践プログラ
ムは対象学級の生徒の命を大切にする心を育成する上で有効であることが確かめられた。

また、生徒の記述内容や教職員の感想・聞き取りから、道徳的実践プログラムを活用したこ
とによる生徒の命を大切にする心の育成に効果があり、中学校道徳教育の指導改善に役立つ
という見通しをもつことができた。

2 今後の課題

命を大切にする心を育む道徳的実践プログラムの推進にあたっては、研究協力校との事前の検
討が非常に重要であった。よって、今後このプログラムを広く各学校において汎用するにあたっ

ては、各学校の実態に合わせた年間を見通した全校体制での道徳的実践活動の場面の設定や構想図の作成，教職員の共通理解を図った上での推進が必要であると考える。

[おわりに]

この研究を進めるにあたり，お忙しい中ご協力いただきました研究協力校の先生方，生徒の皆さんに心から感謝申し上げます。

【引用文献】

川喜田二郎(1967)，『発想法 - 創造性開発のために』，中央公論新社

東京書籍株式会社(2008)，『中学道徳【岩手県版】—明日をひらく 1，2，3—』(道徳副読本)

【参考文献】

岩手県立総合教育センター(2005)，『教科との関連を図る小・中学校総合的な学習の時間の改善に関する研究』

岩手県立総合教育センター(2006)，『命を大切に作る心を育む小学校道徳教育に関する研究』

岩手県立総合教育センター(2007)，『中学校の道徳教育—理論と実際—』

押谷由夫(1995)，『総合単元的道徳学習論の提唱—構想と展開』，文溪堂

梶田叡一(1989)，『自己意識の発達心理学』，金子書房

楠茂宣(2005)，『道徳と特別活動』1月号，文溪堂

七條正典，五條しおり(1999)，『「心の教育」実践大系 3 中学生の心の教育』，日本図書センター

杉田洋(2007)，『指導と評価07』7月号，日本図書文化協会

中軽米央子(2007)，『錆びた自転車—平成19年度岩手県授業力ブラッシュアッププラン中学校道徳自作資料—』

永田繁雄(2006)，『「じぶん」「いのち」「なかま」を見つめる道徳授業』，教育出版

永田繁雄(2007)，『道徳と特別活動』6月号，文溪堂